

# いま八戸にどんな美術館が必要か

八戸には三社大祭、館鼻朝市、横丁、デコトラ、南郷アートプロジェクトをはじめとする地域の風俗・民俗に根ざした深い文化があり、また種差海岸や蕪島といった特徴的で美しい風景がある。一方で、市街地にはすでに八戸ポータルミュージアムはっち、八戸ブックセンター、八戸市公会堂といった文化施設がある。

私たちが提案するのは、八戸にすでにある以上のような文化資源を専門的に調査・研究し、ほかの都市の文化資産と結び付けながら新たな価値を考え創出すること、そしてそうしたプロセスをスタッフや市民、さらに市外からの来館者と共有することを可能にする「学びの拠点」としてのラーニングセンターである。

あらゆる情報が急速に世界中に拡散していく現在だからこそ、その土地固有の文化資源の活かし方を考えることを通じて、市民が「学び」を共有できるような、新たな枠組や施設が必要となっている。それこそが現在の行政が担うべき公共性であると考えている。

